

倉橋工政會理事

我々は總ての空論を排して實行しなければならぬ處の多くのものを日本の技術界に持つてをる、空論を排する言ふ事は引込思案をする事ではない、實行する言ふ事は自己の野心を滿さん爲に排他的の運動をする事ではない、今の總ての技術家は公益の爲めに一切の私情を投げすてて他と俱に堂々大歩し得る確信がなければならぬ。我々は眞實に生きる。實感主義者である。自動車で馳け廻る大家が市街電車の交通問題を論じてもそれは眞剣味が無い。總ての問題は自分が日々觸れてをる處の生活上の體驗から割出したものでなくてはならぬ。此點に於て工政會の高速度鐵道問題に就て起された速成運動の如きは我々の最も共鳴するものである。それは恐らく今爰に紹介せんとする倉橋氏なきの生活體驗から生れ出た案であつて又實に社會公衆の生活上道徳上の大問題に直接關係してをるのである。

工政會の常務理事としての倉橋藤次郎氏は既に充分に世に知られてをる人である。寧ろ本文の記者は寡聞であつた。然し工政誌上を通じて工政會の諸種の事業や運動を次から次へ考へて見るに倉橋氏の生々しい血が何處にも通つてをる事を想像するに難くはない。氏の半面を窺ふべく記者は次の一編を紹介したい。(一記者)

倉橋氏は高速度鐵道問題を論ずる前に次の如き實感を述べられた。

「今日の大都會生活者にまつて毎日の大問題は、こうして宅は出て行くが果して都合よく電車に乗れるかさうかである、今日は果して何臺目の電車にぶら下り得るか、如何に勇

敢にかざり付き得るかは、毎日少なくとも二回宛市民生活を脅威する重大且つ痛切なる問題である、電車を思へば出掛けるのがウンザリする況んや婦人小供、況んや又雨雪の日に於ておやである。

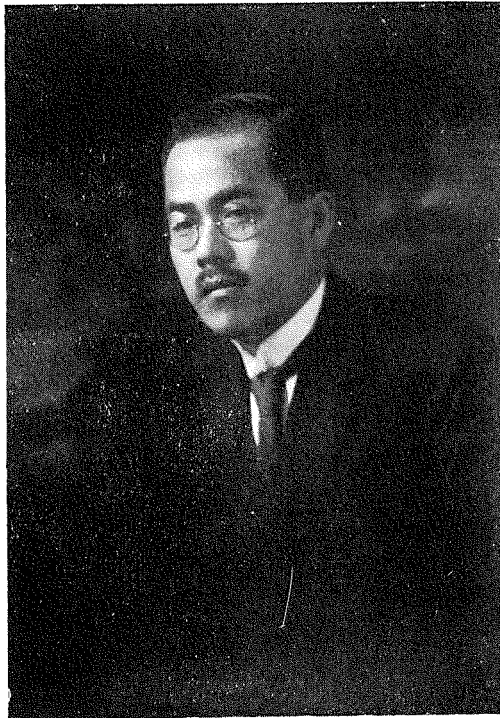
× × ×

私は帝都復興問題に關聯して、今日速かに先づ東京市の高速度交通機關を如何にして實現すべきやに就て、官民諸君が急速に態度を決定されん事を切望する、今日は最早や計畫の時ではない、唯斷行の時である。

× × ×

要はこれを斷行するの勇氣と識見である、財源の問題は勿論大切である、然し

ながら吾々市民の日常生活がかくまで脅威され市民をして相互に相争ひ相排せしむ、情操と道義を傷つけ日々第二の國民の徳性を破壊しつゝ、尙ほ冷やかに算盤玉に拘泥せざるを得ないかを反問したい、私は今日何をおいても帝都復興計畫に關聯して高速度交通機關の問題を解決せよと強く叫ぶ。」



T. Kurahashi

Director General of the Society of Industrial Policy
工政會常務理事 倉橋藤次郎氏